男声合唱団 昴ニュース

No.803
2024.1.19

発行：男声合唱団 昴
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

11/29(金)～12/1(日)

日本のうたごえ祭典

みんなで

今年こそ 佐賀へ行こう！

2024年、新しい年の幕開けは、能登半島での大地震のニュースでした。

激動の年を感じさせるものでしたが、この国の防災対策の貧困さを浮き彫りにしました。29年前の阪神淡路大震災、13年前の東日本大震災などの経験を踏まえても、なお、寒い体育館での雑魚寝とは！

また、震度7を記録した志賀町にある原発の状況が、きちんと報道されないのが気になります。

1月～2月の活動予定（会議を除く）

1/19(金)	18:00	定例レッスン
1/21(日)	14:00	定例レッスン
1/28(日)	14:00	平和を考える講演とうたごえのつどい（核兵器禁止条約発効３周年記念）
2/ 2(金)	13:30	声楽中村教室
〃	18:00	定例レッスン
2/ 4(日)	14:00	昴友の会定例練習会
2/ 6(火)	15:00	T1・T2パートレッスン
2/13(火)	13:30	声楽千秋教室Ⅰ
〃	18:00	Br・Bsパートレッスン
2/15(木)	17:00	声楽千秋教室Ⅱ（変更）
2/16(金)	18:00	定例レッスン
2/18(日)	14:00	定例レッスン

今年の日本のうたごえ祭典は、佐賀で開かれます。【11/29(金)～12/1(日)】大音楽会では荒木栄生誕100周年記念で、「地底のうた」も歌われます。

今年こそ、みんなでいっしょに佐賀に行って、全国の仲間と歌い交わしたいと思います。

ごあいさつ

昴団長　千秋昌弘

2024年、新年あけまして
おめでとうございます

今年は、団と友の会員が増え、一緒に歌っていただき、昴を大きくしていきたいと願います。

そのためにも、今歌っている仲間が、健康で歌い続けていくことが大切です。悲しい思いはしたくありません。お互い励ましあって歌っていきましょう。そして南部合発、創作交流、リック羽曳野で推薦を受け、佐賀目指しましょう。

そして、2025年の第15回昴コンサートを感動のステージにするため、坂井指揮者と共に龍のごとく元気に進みましょう。

本年が昴のみなさまにとって、佳き年でありますよう祈念いたします。

２０２４・元旦

ごあいさつ

坂井 威文さん（指揮者）

あけましておめでとうございます。

年が改まって早々に、地震に飛行機事故とめでたくないニュースが飛び込んできました。

こういう時にどうしても考えてしまうのが、「音楽には何ができるのか」ということです。「歌で元気づけたい」と思うことは簡単ですが、瓦礫の下や避難所で苦しんでいる方に対してはあまりにも無力です。

以下は、なかにしあかねさんの「歌に何ができるだろう」という合唱曲の一節です。

「ただそばにいるだけ」

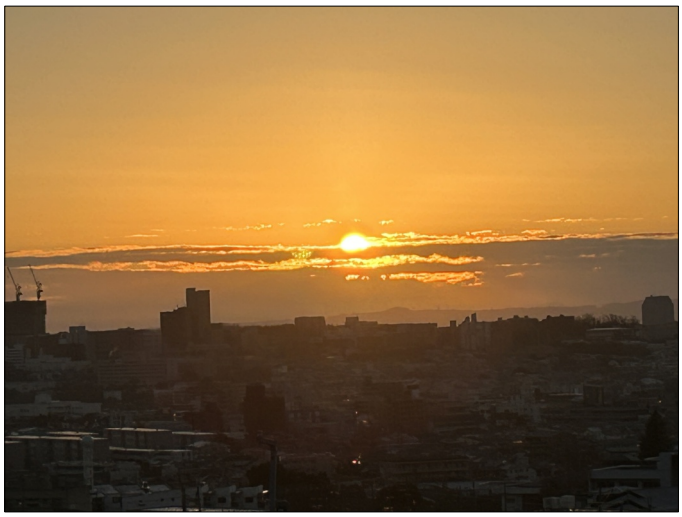
話は変わりますが、今年は全国合発が佐賀であります。

今年こそは皆さんと佐賀に行きたいです。

体調に気をつけてがんばっていきましょう！

今年もよろしくお願いいたします。

1/1が曇りでしたので、1/2高槻・卑弥呼の銅鏡が出土した「青龍三年の丘」からの景色です。日の出は京都・男山付近、右の山が生駒山。眼下は高槻市東部地域。（吉岡　敬）



元日朝は曇天でした。2日朝、箕面山の丘からスマホで撮影した写真を送ります。（伊藤　知）

2024年　本年もどうぞ よろしくお願い申し上げます

バス　丹下　務

冬の朝、空の奥の奥までキラキラと輝いている、そんな、朝を迎えた2024年の1月1日でした。

何時ものように実業団駅伝を見ながらの昼過ぎ、ダダバ　ダダバ　ダバと口ずさみ、団友伊藤さん、吉岡さんから送られてきた、丁寧な練習用音源を聞き、手をたたき、足を踏み鳴らしリズムを刻んで、2時間弱。

なんだか揺れたかなと感じたのが、能登半島地震でした。

阪神淡路大震災から29年経っていますが、テレビで流される論調、相変わらず「いつ、何時起こるかわからない、
気を付けてください」。

それにしても、人を殺す武器に何兆円もの金をつぎ込む前に、国民の命、安全な日常生活の保証にこそ予算を回してもらいたいものです。

「忘れないために」ダーーーバダーーーバ　歌います。

「思い出すために」の詩が、わかりにくいという声がありました。大学・大学院と寺山修司を研究していて、詩の楽しみ方を広げる活動をしている「めぐ@詩のソムリエ」さんのブログが、とてもわかりやすかったので一部を抜粋して紹介します。（吉岡）

寺山修司「思い出すために」

初恋は、忘れてしまいたいほどつらい恋愛だったのだろうか。それでも思い出をつづることばは、「セーヌ川」「青麦」「クローバー」「朝の光」とみずみずしく、かけがえのない記憶がリフレインし、「忘れたい」と「覚えていたい」が二律背反にせめぎあう。「忘れたいほどつらいのか」と思わせておいて、「やっぱり（それでも）愛している、どんな小さな思い出ひとつ、失いたくない」という言外の想いが凝縮している。

寺山らしい韜晦（とうかい・本心を隠すこと）が現れている詩だと思う。寺山は、ことばに自分を隠そうとする。青森で生まれ育った寺山のルーツを知らなくても、「青麦畑で交わした初めての口づけ」や「パスポートに挟んでおいた／四ツ葉のクローバ」が虚構（フィクション）であることはわかりやすい。それでも漏れ出てくるせつない感情が、詩を忘れがたいものにする。寺山はそういうことばの使い手だ。虚構だらけの詩の行と行の間に、本当の彼がさみしそうに微笑んでいる。

「まとめてみんな今すぐ」思い出したいのは、記憶が遠のいていくからだろうか。時間はやさしくも残酷にも過ぎゆき、過去を遠いものにする。愛には過去形などなく、時に憎しみや感傷のかたちになって続いていくけど、記憶だけはぽろぽろと指の間からこぼれ落ちていく。

思い出すだけで胸が甘く破けそうな記憶が、私の胸にもたくさん秘めてある。

詩で詠われている「忘れてしまいたい」は、「しまっておきたい」のかもしれない。どんなに辛い恋愛でも、思い出じたいは美しいものだから。

めぐ@詩のソムリエ

詐欺にあいかけた話

Bs　清水恭太郎

10月27日14時ごろ、パソコン操作中、突然画面にウイルスが入った。

「下に書いている電話にかけてください。」と指示されその様に電話すると、片言の日本語で「リモートで指示するからウイルスを取り除く」と言うのです。指示された通りするとなんとか元の様な状況になったのです。

そこでその修理代を10万円のアップルのカードで払えと言うことになり。コンビニに行き、カードの購入を言うとそれは詐欺だと言うことになって、警察に相談し、事なきを得ました。